

31. 一酸化炭素中毒症例の多変量解析による検討

三上春夫 伊東範行 野口照義
勝本淑寛 布施安弘

(千葉県救急医療センター)

【目的】 多変量解析におけるロジスティックモデルを適用して、一酸化炭素中毒(以下CO中毒)患者の来院早期のデータが間歇型発症に及ぼす相対危険度を推定する。この結果より特定のパラメータを点数化し、間歇型スコア(Delayed CO Encephalopathy Score)を作成する。

【対象】 対象は1980年から93年1月までに千葉県救急医療センターに入院したCO中毒患者で発症より2日以内に来院した64症例で、うち11例が間歇型に移行した。

【結果】 ロジスティック回帰分析により間歇型発症に寄与する各変数の相対危険度は、

- 1) 曝露+来院時間 1hr:6hr:9hr=1:2:3
- 2) CT異常所見 なし:あり=1:11
- 3) 来院24時間以内のGCS回復
なし:あり=1:12

(GCS: Glasgow Coma Scale)

- 4) 血清GOT 35:50:100=1:2:20

この結果をふまえて下記の間歇型スコアを導入する。

間歇型スコア (Delayed CO Encephalopathy Score)

- 1) 曝露+来院までの時間 \geq 10時間 1点
- 2) (来院3日以内) CT異常所見あり 1点
- 3) (来院24時間以内) GCS完全回復なし ... 2点
- 4) 血清GOT 36~50 IU/L 1点
51~100 2点
101~ 3点

スコア合計3点以上を間歇型発症危険群とする。

この間歇型スコアをデータ組のそろった47例に適用し、スコア3点以上を間歇型危険群とした場合、91.5%の的中率が得られた。

32. 網膜動脈閉塞症に対する高気圧酸素療法

湯佐祚子*1)*3) 長瀧重智*2) 野原 敦*3)
砂川昌秀*3) 松尾和彦*3)

*1) 琉球大学医学部麻酔科学講座
*2) 同 眼科学講座
*3) 同 附属病院高気圧治療部

網膜動脈閉塞症(RAO)は急性虚血性眼疾患の代表であり、高気圧酸素療法(HBO)の適応疾患として、既にその治療効果の報告がなされている。

我々は1984年より現在迄に22症例のRAOをHBOにより治療し、その治療効果を網膜中心動脈閉塞症(CRAO)と網膜中心動脈分枝閉塞症(BRAO)に分けて検討したので報告する。

【対象及び治療方法】 対象は当附属病院眼科にてRAOと診断された22症例で、この内CRAOは13例、BRAOは9例であった。治療は初期にはウロキナーゼ(12-30万単位)を添加した低分子デキストランを静注しながら、星状神経節ブロック(SGB)施行後、HBO(2.8ATA, 90min)を行った。その後は視力検査、蛍光眼底写真(FAG)の結果を参考にしてHBO(2.0ATA, 60min)を継続した。SGB及びウロキナーゼが禁忌の症例ではATPを追加した。

【結果及び考察】 視力の改善は治療開始前より2段階の改善を有効とすると、CRAOでは6例、BRAOでは2例であり、視野の改善はCRAOでは5例、BRAOでは2例であった。完全閉塞例は無かったが、CRAOでは治療前視力はすべて指動弁一指数弁であり、有効例では浮腫が改善している症例が多く、FAGで見た循環時間の改善が遅れた症例は無効であった。BRAOでは治療前にも0.03-1.2の視力があり、改善例では著明な視力の改善が認められた。BRAOでは3例で1ヵ月以内に視力低下をきたした既往歴があり、また治療中に再閉塞をきたした症例もあり、いずれも改善は得られなかった。以上よりCRAOとBRAOでのHBO効果に差があることが示唆された。